

実験用ラットに伝染病

職員一人が感染

京大2千匹焼却処分へ

京大医学部付属動物実験施設
(京都市左京区、施設長・山田
淳三教授)で飼育している実験
用ラットが、ウイルス性の伝染
病で人間が感染すると高熱症状
となる「腎(じん)症候性出血
熱(HFRS)」に感染してい
ることが十日までに分かり、京
大は十一日からラット約二千匹
を焼却処分にすることを決め

た。またHFRS抗体陽性反応
が出た職員が一人いたことか
ら、同学部はラットに接触する
機会のある関係者全員を検査
する。陽性反応が出た職員は発
症はしていない。

施設関係者によると、昨年
十一月、同大医学部の研究者が
入手したラット約三千匹のうち
三匹からHFRSの陽性反応が

出たため、十二月になって既に
飼育していたラットの調査を実
施。同施設と医学部の五研究室
の計六カ所のラットが感染して
いたことが分かった。

医学部の研究室で飼っていた
ラット数百匹については昨年中
に焼却処分を終え、施設内のラ
ットは十一日から焼却処分を開
始、飼育室の消毒作業にも取り
掛かる。

山田教授は感染ルートについ
て「最近では大に代わってラッ
トの実験が多く、飼育数の増加
が原因かもしれないが、詳しい
ことは分からない」と話してい
る。

動物実験施設は京大医学部内
にあり、教授以下十人。ラット
のほか犬や猿、マウスなど数十
匹を飼育している。

1/12

朝日新聞